

同窓会館建設に向けて

同窓会館建設実行委員長(同窓会副会長)
湖陵16期 鈴木豊治

いよいよ同窓会館の建設が始まることとなりました。

昭和五十五年頃、当時の組村真平同窓会長時代に構想化され、長年の懸案でありましたが、この度、久本 甫同窓会長が建設事業協賛会長となり、種々の手続き関係も完了いたしまして、三月中旬着工八月三十一日完成という工程で建設される運びとなったわけでございます。

不肖私が建設実行委員長の大役を仰せつかり、副委員長さんをはじめ各期の実行委員の皆様一丸とじて、成功に向けて寄付集めに奔走しております。

設計は、釧路湿原展望台や博物館その他釧路市内にも沢山の作品を残されており、日本を代表する建築家、湖陵十二期の鬼才毛綱毅曠氏で、建設場所は、釧路市緑ヶ岡の現校舎の敷地内の南側になつております。

「船」をイメージした地下一階、地上三階で総面積三九六平方メートル(一九・七坪)の大変芸術的な建物で、地下は機械室となっており、一階はギャラリーとして開校以来の同窓生の貴重な資料や芸術作品が収められる他、在校生の部活動や同窓生、PTAの各種会合に利用することが出来ます。二階は回廊及び格納庫で、三階に

はレストハウスが設けられております。総工費は一億六千万円で、この全てを同窓生による寄付でまかなわなければならないのです。

バブルの崩壊後国内の景気が非常に冷え込んでおり、なかなか回復の兆しが見えない中で、寄付集めというところで、実行委員の皆様には大変ご苦労いただいているわけでございますが、母校で培われた英知と行動力、そして二十一世紀の未来を見据えた熱き情熱をもって事に当たれば必ずや素晴らしい成果が得られるものと確信しております。

開校以来八十三年、二万数千人に及ぶ卒業生を輩出してきた道東に冠たる我が母校、釧路中学、湖陵高等学校、その同窓生は今や日本国中では言うにおよばず世界に羽ばたき、大いなる活躍をされております。諸先輩が築き上げた素晴らしい伝統を守り、後世に伝えていく事が私たちの務めであり、同窓会館はその中核をなす殿堂となるわけでございます。

釧路はもとより、日本中、世界中の同窓生の皆様、どうか私たちの意のあるところをおくみ取りいただき、同窓会館の完成に向けて絶大なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次第でございます。



今、湖陵に求められているもの

教頭 渡辺 忠 男

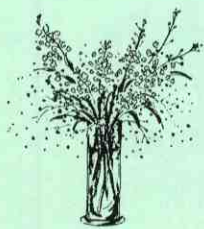
平成八年を迎え、同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃、久本 甫同窓会長をはじめ同窓会の皆様には多大なるご指導ご支援を賜り心から感謝致します。

現況を報告します。日出づる国の北陸に、神祕を削る丈夫の 関十一州に反響して曙光あまねし蝦夷が原；開校以来八十三年目、緑ヶ岡の新校舎も七年目を迎え、教室の窓から春採湖を臨む恵まれた環境の中で、生徒は自由でのびのび文武両道に励んでおります。今年度、全国大会に駒を進めた部活は、陸上、ハンドボール、放送、合唱の各部です。

若年人口の急速な減少の波がひたひたと押し寄せています。平成八年度は普通科が一学級減となり、学年構成は、普通科・理数科合わせて九学級三六〇名編成で、三年前と比べると八十五名の減少となります。文字通り規模のスリム化が進行する中で、進学面でより一層の質の向上を目指す体制づくりが焦眉の急務となってきました。

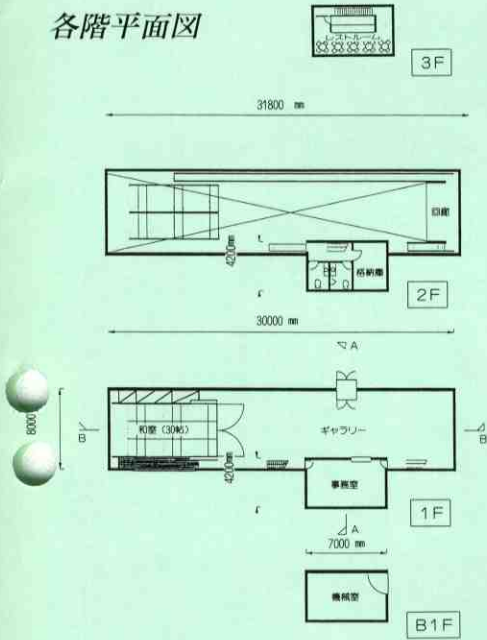
道内の各地域にある旧制中学以来の名門校といわれる高校は、札幌の進学校と比較して相対的に地盤沈下(学力の低下)しているという指摘があります。湖陵生は奮闘していますが、その傾向がないわけではありません。湖陵生の学力のレベルアップをどう図っていくか本校の最大の課題となるわけです。

最近、新聞等で、課外補習や進学の模擬試験の在り方が問題になっていますが、これらは、いずれも本校の進学指導の根幹をなすもので一層の充実を要する問題です。父母の意見をもとにPTA進路指導委員会を中心に問題点を改善しながら推進を図っていかねばならないことと考えます。

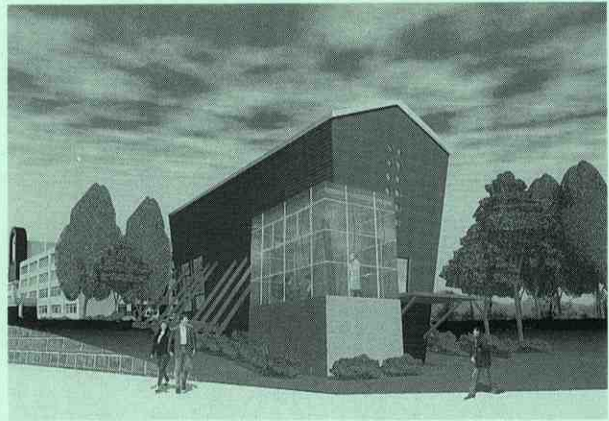
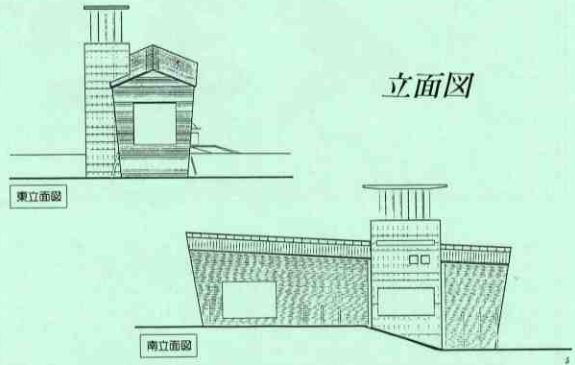


湖陵高校同窓会館(仮称)基本計画

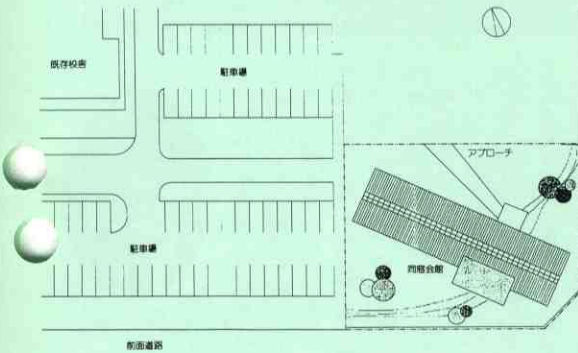
各階平面図



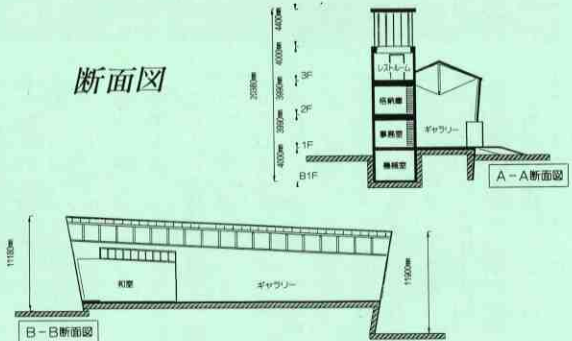
立面図



配置図



断面図



あたたかなふれあい



太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する

セオチェーン

- 妹尾商店**
新橋大通1丁目 ☎25-5345
- 新富士ストア**
新富士駅前 ☎51-3467
- 愛国ストア**
愛国西3丁目 ☎36-3399
- 白樺ストア**
白樺台1丁目 ☎91-5423
- 昭園ストア**
昭と北1丁目 ☎51-8853

さつぼろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック

ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023
営業時間/AM11:00~PM9:00

趣意書

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。私ども母校は、大正二年の創立以来、創高、湖陵と八十余年の年輪を刻み幾多の試練を乗り越え発展を続け、今日に至りました。その間約二万六千名の卒業生は、金道はもちろん金園で有為な人材として活躍しております。

さて、母校の校舎改築や八十周年記念式典も終え、この度永年の願望であった同窓会館（仮称）の建設に向けて、いよいよ募金活動を開始する運びとなりました。

この同窓会館は、創立以来の貴重な記録、資料、同窓生の芸術品を保存、展示すると同時に、在校生の部活動並びに同窓生やPTAの各種会合等に提供し、伝統ある諸活動が一層充実させ、有為な人材育成とともに、貴重な芸術品に直接触れることにより、情操教育の一助にも寄与するものと考えております。

何卒、この趣旨にご理解いただき本事業達成のため絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、皆様のご協力により完成した同窓会館は、より一層の活用を願い完成後直ちに北海道（北海道釧路湖陵高等学校）へ寄附することといたします。

平成八年一月吉日

- 北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会
 協賛会会長（全日制同窓会会長） 久本 隆
 協賛会副会長（全日制同窓会副会長） 遠藤 正吉
 同（全日制同窓会副会長） 北 明 纈
 同（全日制同窓会副会長） 原 正 隆
 同（定時制同窓会事務局局長） 河 原 纈
 同（湖陵同窓会東支部長） 栗 村 英 二
 同（湖陵同窓会北支部長） 栗 林 正 明
 同（湖陵同窓会十勝支部長） 河 崎 弘
 （湖陵1期）

募金協力のお願ひ

寒さ耐えがたい候、同窓生の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、同窓会の運営にあたりましては、格段のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて協賛会では趣意書にもありますように念願の同窓会館を建設する運びとなり、その実現をめざして募金のご協力をお願いしているところでございます。

なおこの同窓会館は我々同窓生が活用することは勿論のこと在校生、そして今後湖陵高校で学ばれる多くの後輩の皆様にもおおいに活用していただくための会館でございます。

湖陵の伝統にふさわしい会館を建設致したいと思っておりますのでどうかご協力を賜りますようお願いもよろしくお願ひ申し上げます。

平成八年一月吉日

- 北海道釧路湖陵高等学校
 同窓会館建設事業協賛会
 会 長（同窓会会長） 久本 隆
 実行委員長（同窓会副会長） 鈴木 豊 治

同窓生各位

釧路のおみやげに！

しあわせをお菓子にのせて



焼きたて
せんべい

熊ま



釧路市南大通2 ☎代41-2121

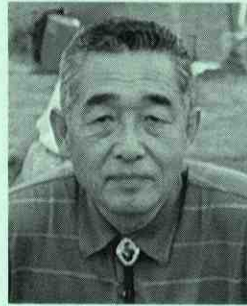
同期会だより

釧中30, 31期生の動静

「箱根、伊豆への修学旅行」

東京当番 (31期)

大畑 勝 義



いるのだそうだ。

私共の在学中は戦時中とあって、大半を学徒動員に狩り出され、十勝、釧路管内の農家へ援農、尾幌山奥での木材搬出、帯広、西春別で飛行場の建設、津別では軍用機向けベニヤ板製造などなど、夫々の地で集団、又は数名づつ寄宿生活、文字通り寝食を共にしたので強い絆の親近感、人間関係になっているのが、三十、三十一期生の特色である。

この頃は月火水木金金といつて休日が一切なく、休むことが罪悪視され、まして修学旅行などという気の効いたものはなかった。

現在六十六歳を越えればかなりの我々に、老人意識など全くないが、六十六歳ともなれば六十歳以後の延長職域からも解放されて来つつある。

これからは余生を楽しむ、同伴の修学旅行は如何なものか。という事で我々同期生は、釧路道東、札幌道南、東京本州の三ブロックが持ち廻りで、毎年一回顔を合わせ

三十一・三十一期生というのは、当時、旧制中学が五年制の折、四年で「修了」と言ったのが三十期、五年迄進めば「卒業」で三十一期の二段階選別制。これも旧制中学としてはどん尻の卒業生である。以後釧路高校が二期あり、更にその次に湖陵高校が発足の初年度となるが、湖陵は釧路高校から勘定して現在に至って

数一八五名、物故者が六十五名あり、卒業生二五〇名中四分の一が亡くなっている。

旅行会の出席者は毎回六十名を超え、平成七年度は箱根と熱海の二泊制で大変豪華なものだった。十月中旬とは言え日中二十六度を超えて釧路人には真夏だった。

この会も回を重ねる毎に、夫人同志が仲良くなり、出席してみても、釧路高女時代の同級又は同期が分つたり、遠戚関係であった事に驚いたり。本人より夫人に強要されておとなしく出席する例。など面白いことが多い。

サルは木から落ちて猿。との諺があるが、同期は同じ穴のムジナ、家柄、毛並み、過去の職歴、経歴など一切無用。対等、平等の精神に則り、トンコ、チン、ラジオ、タヌキ、ゼツベキ、等々、当時のニックネームがその儘まかり通るし、もう時効だから、との安心感から、ワルガキ、悪童振りが自慢のタネ。時間の経つのも忘れて飲み交わされる。

如何に口先きが達者とは言え、自づと差別がつくのが健康と体力。食後引き続き飲まねばならぬ葉が

一食。観光地につきものの長い階段。その階段下のベンチで皆の帰りを待たざるを得ない姿には同情を禁じ得ない。

百聞は一見に如かず、旅行こそ見聞を広める最大の手段だというが、観光旅行が出来る体力年令はせいぜい七十五歳位迄が限界でなかろうか。旅行はしたいがその内、という人が意外に多い。気がついてみればその機を逸していたとあっては、取り返しがつかない。

まして職場から墓場への直行便とあっては、一体何の為に生きて来たのか。今が老春の真最中である事を認識すべきだ。

平成九年に我々同期生が、卒業五十周年を迎える。この年の主催当番ブロックが釧路なので、米町の定光寺で物故者の追悼法要と、卒業五十年誌の発刊が予定されているという。

会合の都度、別れ際の冗談まじりに、「お前達死ぬなよ。生きていろよ。」を合言葉にして笑っているが、それが分らないだけに、これからは一日一日を大切に、楽しいものである事を願っている。絆を大切にしながら。

ゴルフショップ 三幸

新橋大通 5 - 1

代表 宮本 英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——

奥田 達也(釧高1期)の

誠愛勇から

高島康造の巻

(釧中19期)



静謐(せいひつ)な広間に真剣勝負にも似た空気が籠っている。そこには凜然(りんぜん)と、花を生ける和服姿の武将・池坊高島康造が在った。

華道式典での一セレモニーながら、その厳しさに打たれ、感慨もひとしお「花を生ける男」への偏見を改めた時でもあった。

釧路築港工事に携わっていた父成雄が大正十五年に三十八歳で亡くなった。生前から女の生き方として、一枝夫人に生け花を習わせている。

柔和にして誰とでも優しく話合

池坊全国大会誘致に粘り 母譲りの“不撓不屈”で成功

戦後の混乱期、華道界も前衛生花がおこり伝統芸術の安易さはなく、池坊釧路中央支部の結成から一校会の社中展開催など、女社会のむずかしい中、康造の社交性、

高島康造が小学三年。それから華道教授で身をたて子供らを育てる「花に生きる女」の道一筋が始まるのである。

康造が釧路卒業後、釧路郵便局に入り終戦までの五年間兵役、復員後、局に復帰して華道教授を志すにはこうした父母の環境があった。

う世話好きの多忙な中、学芸大学(現教育大学)釧路分校に入り学業をつづけた猛烈さに八面六臂をみる強烈さを覚えたものである。

釧路華道史として釧路生花三十周年誌「華の輪」執筆は、拙著「釧中物語」連載と同時に始まっており、お互いの苦労を語り合い乍らアドバイスし合ったもの。

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811



岩城 朋大

三年間の高校生活。一見長いようでも振り返ってみると、あっという間に過ぎてしまったという感じがしています。

入学前、湖陵高校は進学校という事で、生徒達は勉強ばかりで生真面目な人ばかりだというイメージを持っていました。ところが入学してみると、そのような事ではなく先生・生徒共に人間味のある人達ばかりでした。また、文武両道という校風もあって部活動にも熱心に取り組み、全道大会、そして全国大会で活躍している部も多くあり、有意義で楽しい学校生活を送る事ができると思い、本当にこの学校に入学して良かったと思っただのを覚えています。

学校生活の中で色々な経験をしていきましたが、その中でも一番得るものが多かったのは部活動であったと思います。最初、同好会だった空手部を部に昇格させたというのは滅多にできない経験でした。その時、お世話になった先生方や署名に協力して下さった生徒みなさんにはとても感謝しています。残念ながらもまだ良い成績を

残してはいませんが、後輩達にはこれからも頑張ってもらいたいと思っています。

この湖陵高校を卒業した後、それぞれ学生や社会人として旅立つことになりました。地元に残る人もいれば、道外へ出て行く人もいます。環境が今までは全く違ったものになる事と思います。それに高校を卒業したとなれば、世間からは違った目で見られ、今までできなかった事もある程度できるようになるでしょう。しかしその反面、自分の行動に責任を問われる事になると思います。ですから私は、一人前の人間になるために、今までの生活の中で得たものを基にして頑張っていきたいと思っています。

この三年間、様々な面でお世話になった先生方、本当に有難うございました。そして後輩のみなさんが湖陵高校の伝統を受け継ぎ、活躍してくれる事を期待しています。

学窓を巣立つ

湖陵48期



樹 蠣崎

ろうとする焦りで胸が張り詰めていた日々は、既に色褪せた過去の思い出と化してしまい、今改めて振り返ってみると、瞬く間に過ぎ去って行った三年という月日の早さが実感されます。

しかし、そうとはいえず、高校生活での雑多な経験を通して取得したものの集積は計り知れない程であり、あらゆる面で大きく成長できたのではないかと思います。自分分の場合、就中何かに励んだり、頑なに貫き通した信念があったわ

けでもありませんでしたが、固執する事柄がなかったからこそ浅くではあるものの視野を広げることができ、そのことで将来へ向けて追究して行きたい分野を見出せたという進展があったので、却って良かったと思います。

さて、高校卒業後は、皆別々の道を行くことになりましたが、いずれの道へ進むにしても、今以上に困難で了解できず、また名状し難い事が数多く待ち構えているでしょうから、明確な目的意識を持って臨まないと、人生をも台無しにしてしまうことにもなり兼ねません。自らが希望した道の途中で挫折するのも口惜しいことですが、目的が不明瞭なために出発点で行き詰まった状態で低迷し続けるのでは、一生悔恨の情に苛まれるに相違ありません。ですから、人生の岐路ともなるべき今回の卒業を機に、自己の曖昧な点を認識し直し、何事をも等閑にせず先見の明を養い、不屈の精神を鍛錬できるように努力して行こうと思えます。

最後になりましたが、有意義な高校生活へと導いて下さった諸先生方に敬服し、御理解と御協力に畏敬の念を表し、また今回集立って行く皆が確固たる信念を持って成功への道を辿れることを祈念致します。

いつも、新しいコミュニケーション



田畑印刷文具株式会社

〒084 釧路市鳥取大通4丁目17 TEL(0154)51-2113 FAX 51-1992

「学園だより'96」母校の活動

文責 湖陵14期 笹野 晟士

平成七年度の主な年間行事について記述します。まことに多忙な年でした。

〔四月〕10日始業式・入学式。11日対面式・歓迎会。12日身体測定・心電図。17日学力診断テスト・公務員模試。18日歯科検診。19日宿研結団式。20日より22日迄宿泊研修。24日より28日迄図書ガイダンス。26日内科検診。28日生徒総会。

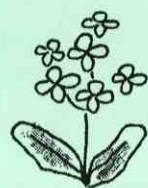


〔五月〕6日より6日全統マーク模試。11日市内文体連。15日より18日迄第一回テスト。18日公務員模試。19日避難訓練。23日X線検査。29日教育実習開始。29日より31日迄弓道・ソフトテニス当番校。



〔六月〕3日より4日迄進研マーク模試。16日公務員試験。17日道模試。18日英語検定。21日より23日迄全道高P連当番校。

〔七月〕2日教員採用試験一次会場。3日より6日迄第二回テスト。12日より14日迄体育大会。18日公務員模試。24日終業式。25日より31日迄夏季補習。



〈八月〉2日より4日迄教員採用試験二次会場。6日より7日代々木マーク模試。17日より18日迄全統マーク模試。19日始業式。25日より28日迄湖陵祭。

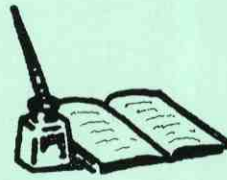
〈九月〉1日公務員模試。9日旺文社記述模試。15日全統記述模試。16日小論文模試。19日芸術鑑賞。22日開校記念日及び代々木私大模試。25日より27日全道図書館大会。29日生徒総会。30日見学旅行説明会及び旺文社マーク。

〈十月〉1日旺文社マーク模試。2日より5日迄第三回テスト。7日進研マーク模試。12日見学旅行結団式。14日より19日迄二班に分かれて見学旅行。22日英研。28日より29日迄進研記述模試。



〈十一月〉3日北大実戦。4日より5日迄全統マーク模試。6日学力テスト。11日より12日進研マーク模試。19日北大オープン。25日より26日迄全統センタープレテスト及び看護模試。

〈十二月〉11月29日より12月2日第4回テスト。2日より3日代々木センタープレテスト。23日より28日迄冬期補習。25日終業式。



〈一月〉13日より14日迄センターテスト。20日始業式。22日学力テスト。

〈二月〉1日三年生家庭学習開始。4日旺文社実力テスト。5日公務員模試。17日より18日迄進研センター対策テスト。21日避難訓練。29日卒業式予行。

〈三月〉1日卒業式。2日より5日迄第五回テスト。22日終業式・離任式。26日入学者仮登校日。以上でございます。

第47回 卒業証書授与式



編集後記

原稿への御協力を！

春暖快適の候。春浅く風もまだ冷たいけれど、日増しに暖気を加え、長い冬のトンネルを抜け出てほのぼのと早春、暖かい春の空気が頬をなでます。

さて、湖陵高校第四十八回卒業生と保護者の皆さん、そして同窓生の皆様御同慶に存じます。

三月は夢多い人生最高に輝く進級・進学・就職の希望溢れる季節です。前途洋々に期待しております。

三月と八月の年二回の「くまざさ」も号を重ねて三十三号の発行となりました。これも執筆依頼の方々の提出協力と紙面に情報提供くださる同窓会員の方々のお力添えと感謝致しております。

今号は特に実行委員長報告で、間近にせまった同窓会館建設についてを掲載しております。お読みいただいで各期の皆様の絶大なご協力をお願いします。

尚、編集委員会へ情報と資料の提供とご投稿をお待ちしております。

● 釧中・湖陵をご卒業になって、なつかしく今も同期の方々が集りでの様子や文章にして千字余りと、スナップ写真二枚以内の同期会だよりのご投稿をお待ちしております。

● 全国・全道各地で、ご活躍の卒業生二万数千人の皆様が、卒業期を偲び、又は同窓の親しみをもとに支部を結成、その様子を文章にし、スナップ写真数葉を副えてのご投稿を心からお待ちしております。

尚お写真は、貴重な思い出ですので必ずご返却致します。

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 久本 甫
- 同窓会幹事長 関口 政司
- 編集委員長 上岡 信明
- 編集委員 奥田 達也
- 平野 清次郎
- 石川 和男